

法学部A方式Ⅰ日程・文学部A方式Ⅱ日程・経営学部A方式Ⅱ日程

3 限 選 択 科 目 (60 分)

科 目	ページ	科 目	ページ
政治・経済	2～20	日 本 史	22～36
世 界 史	38～56	地 理	58～68
数 学	70～72		

〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 試験開始後の科目の変更は認めない。
4. **数学**は志望学部・学科によって解答する問題が決まっている。問題に指示されている通りに解答すること。指定されていない問題を解答した場合、採点の対象としないので注意すること。なお、以下の注意事項も参照すること。
 - ・解答を導く途中経過も書くこと。
 - ・解答はおもて面に記入すること(裏面は採点の対象にならない)。
 - ・その他、解答用紙に記載された指示にしたがい解答すること(この指示どおりでない場合は採点の対象としない)。
 - ・定規、コンパス、電卓の使用は認めない。
5. マークシート解答方法については以下の注意事項を読みなさい。

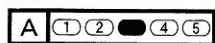
マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

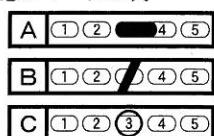
記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

(世界史)

〔I〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

476年、西ローマ皇帝ロムルスを廃位したゲルマン人傭兵隊長 **A** は、後継皇帝を立てず、ローマ皇帝の帝冠を東ローマ皇帝に返還した。西ローマ帝国の滅亡と言われる事件である。しかし、西ローマ帝国はすでに5世紀前半から、ゲルマン諸族により蚕食されていた。418年には **a** がガリア南西部に、429年には **b** が北アフリカのカルタゴを中心とする地に、そして443年には **c** が現在のジュネーヴを中心とする地に王国を建て、それぞれが勢力を伸張させていたのである。476年の時点で **A** に支配領域として残されていたのは、イタリアおよび隣接する一部地域のみであった。その **A** は493年、**d** 王 **B** に倒され、イタリアには **d** 王国が建国された。

西ローマ帝国滅亡後のガリア北部でフランク王国を建てたのは、クローヴィスであった。彼に始まる王朝は、彼の祖父の名をとって **C** 朝と呼ばれる。クローヴィスは496年、ガリアの非ゲルマン系住民の多くが信奉するカトリックに改宗した。そして6世紀に入ると、**a** との戦いに勝利して、ガリア南部の主要部分を獲得した。こうしてクローヴィスは、フランク王国が西ヨーロッパの中心勢力に発展する基礎を固めた。彼の死後の534年には、**c** 王国もフランクに併合された。しかし、**C** 朝の王権は分割相続と内紛によりしだいに弱体化していった。そのような中で台頭してきたのが、フランク王国における最高官職を世襲するようになった **D** 家であった。⁽¹⁾**E** が⁽²⁾ピレネー山脈を越えて侵入してきたイスラーム軍を732年に撃退したことは⁽³⁾**D** 家の地位を不動のものとした。彼の息子 **F** は751年、ついに**C** 朝の王を廃して自ら王位に就き、**D** 朝を開いた。

この王朝交替はローマ教皇の支持を得て行われたものであった。**F** は**C** 朝の血統を断って新王朝を開くことの正当性を、ローマ教皇の支持に

求めた。そして即位式の際にフランク王としてはじめて、「神によって選ばれた支配者」を聖別する塗油の儀式を受けた。では、ローマ教皇の側はなぜ F の行動を支持したのであろうか。

西ローマ帝国滅亡後、ローマ教皇は世俗権力の保護を東ローマ帝国に求めた。6世紀の東ローマ帝国は、534年に b 王国を、555年に d 王国を滅ぼすなど、西方領の回復を図ったが、それは一時的なものであった。568年には e が北イタリアに侵入・建国し、中・南部イタリアにも勢力を伸ばした。ドナウ地方に定住したモンゴル系遊牧民 f 人も、東ローマ帝国を脅かした。7世紀に入ると、東ローマ帝国は新興のイスラーム勢力に次々に領土を奪われ、バルカン半島ではスラヴ人の攻撃が激化した。かくして8世紀にはもはや、e の圧迫に苦しむローマ教皇にとって、東ローマ帝国の軍事力はあてにできないものとなっていた。加えて、聖像崇拜論争が東ローマ皇帝とローマ教皇の関係を悪化させていた。このような状況の中で、ローマ教皇はフランクと結ぶことを選んだのであった。

F はローマ教皇の期待に応えた。754年と756年の二度 e 王国に遠征し、e が751年に占領していたラヴェンナ地方を奪還して、教皇に寄進した。F の子カールは772年、異教徒であった g 人を攻め、以後数次にわたる戦役で g 人を征服し、カトリックに改宗させた。また、773年ローマ教皇の要請で e 王国に遠征し、翌年これを滅ぼした。778年にはイスラーム支配下のイベリア半島に遠征したが、帰路にピレネー山中でバスク人の奇襲を受けて敗北を喫した。しかしこの遠征の結果、バルセロナを中心とするスペイン辺境伯領が設置された。カールはさらにバイエルンを併合し、796年までにドナウ中流域の f 人も屈服させた。

こうして西ヨーロッパのほぼ全域を支配下に置いたカールは800年、ローマ教皇 G から「ローマ皇帝」の帝冠を授けられた。476年以来消滅していた西ローマ帝国の「復活」とされるこのカール戴冠は、F 以来のローマ教皇・フランク王国の協同関係の到達点であり、東ローマ帝国を中心とする東ヨーロッパ世界に対し、ラテン的キリスト教世界としての西ヨーロッパ世界が発展していく基礎となる出来事であった。

問1 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つずつ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| 1 アッティラ | 2 アラリック | 3 エグベルト |
| 4 オドアケル | 5 カペー | 6 カール＝マルテル |
| 7 カロリング | 8 クレメンス5世 | 9 テオドリック |
| 10 ピピン1世 | 11 ピピン3世 | 12 メロヴィング |
| 13 レオ1世 | 14 レオ3世 | 15 ロロ |

問2 文中の空欄 ～ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つずつ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

〔語群〕

- | | | | |
|---------|----------|-----------|--------|
| 1 アヴァール | 2 アングル | 3 ヴァンダル | 4 エフタル |
| 5 ケルト | 6 ザクセン | 7 デーン | 8 西ゴート |
| 9 東ゴート | 10 ブルガール | 11 ブルグンド | 12 フン |
| 13 ベーメン | 14 マジャール | 15 ランゴバルド | |

問3 下線部(1)について。この最高官職の呼称はつぎのうちのどれか。その数字を解答欄にマークせよ。

- | | | | |
|------|-------|-------|-----|
| 1 宮宰 | 2 執政官 | 3 巡察使 | 4 伯 |
|------|-------|-------|-----|

問4 下線部(2)について。当時イベリア半島を支配下に置いていたイスラーム王朝について述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 この王朝は、シリア総督であったムアウィヤが第4代正統カリフであったウスマーンを倒して創始したものである。
- 2 この王朝は都をバグダードに置き、西北インドから北アフリカ・イベリア半島におよぶ広大な領域を支配した。
- 3 この王朝は711年、6世紀初頭にクローヴィスに敗れて中心をイベリア半島に移していたゲルマン人王国を滅ぼした。
- 4 この王朝は、第8代君主アブド=アッラフマーン3世の頃に最盛期を迎えた。

問5 下線部(3)について。この戦いの呼称はつぎのうちのどれか。その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 カタラウヌムの戦い
- 2 トゥール・ポワティエ間の戦い
- 3 ニハーヴァンドの戦い
- 4 レヒフェルトの戦い

問6 下線部(4)について。イスラーム教の誕生について述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 イスラーム教の開祖であるムハンマドは、5世紀末頃にカーバ神殿の管理権を握ってメッカを支配した、アラブ系のクライシュ族の出身であった。
- 2 ムハンマドは610年頃アッラーの啓示を受けて預言者として宣教活動を始めたが、メッカのクライシュ族は当初から彼の教えを受け入れ、その宣教活動を支援した。
- 3 ムハンマドは、ユダヤ教のアブラハムやイザヤ、キリスト教のイエスなどは「偽預言者」であるとして、その価値を一切認めなかった。
- 4 ムハンマドがアッラーから授けられた啓示は長く口伝えで伝承され、イスラーム教の聖典『コーラン』として現在の形に編集されたのは、850年頃のことであった。

問7 下線部(5)について。この状況に関連する以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 東ローマ帝国からシリア・エジプトを奪ったのは、第2代正統カリフであるアブー＝バクルであった。
- 2 新興のイスラーム勢力と戦った東ローマ皇帝は、641年まで帝位にあったヘラクレイオス1世であった。
- 3 東ローマ帝国では7世紀後半、プロノイア制が導入された。これは、有力将軍や貴族の軍事奉仕に対し、皇帝が国有地ないし徴税権を授与する、というものであった。
- 4 東ローマ帝国では7世紀後半、テマ制が導入された。これは、兵士に土地を分与し、農業をさせながら戦時には軍役に就かせる、というものであった。

問8 下線部(6)について。スラヴ人について述べた以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 6世紀以降バルカン半島に南下したのは、セルビア人やクロアチア人など、西スラヴ人と総称される人々であった。
- 2 セルビア人は東ローマ帝国と敵対を続け、14世紀末にオスマン帝国に服属するまで、キリスト教を受容しなかった。
- 3 クロアチア人は8世紀末に東ローマ帝国に服属し、ギリシア正教に改宗した。
- 4 9世紀半ばにスラヴ人へのギリシア正教の布教に努めたキュリロスは、ギリシア文字をもとにグラゴール文字を考案し、これがキリル文字のもととなった。

問9 下線部(7)について。聖像崇拜論争に関連する以下の文のうち、誤っているものを一つ選び、その数字を解答欄にマークせよ。

- 1 東ローマ帝国では、皇帝がコンスタンティノーブル総主教の任免権を保持して、しばしば教会問題に介入した。
- 2 東ローマ皇帝レオン3世は726年、すべての聖像の制作・所持・崇拜を禁止し、聖像破壊を命じる法令を發布した。
- 3 ローマ教会はゲルマン人への布教に聖像を利用していたため、聖像禁止には反対であった。
- 4 この聖像崇拜論争のち、ギリシア正教会では聖像(イコン)の制作・崇拜は厳しく禁止されたまま、今日にいたっている。

問10 下線部(8)について。東ローマ帝国の総督府が置かれていたラヴェンナには、6世紀に西方領の回復を図った東ローマ皇帝とその妃、廷臣たちを描くモザイク画で有名な教会が残っている。この教会はつぎのうちのどれか。その数字を解答欄にマークせよ。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 サン=ヴィターレ教会 | 2 サンタ=マリア教会 |
| 3 サン=マルコ教会 | 4 ハギア=ソフィア教会 |

問11 下線部(9)について。この遠征を素材として1100年頃に成立した武勲詩は、つぎのうちのどれか。その数字を解答欄にマークせよ。

- | | |
|-------------|----------|
| 1 アーサー王物語 | 2 カール大帝伝 |
| 3 ニーベルンゲンの歌 | 4 ローランの歌 |

問12 下線部(10)について。ラテン的キリスト教世界の形成に関する以下の文のうち、正しいものを一つ選び、その数字を解答欄に記入せよ。

- 1 キリスト教の聖書はローマ帝国末期、ヒエロニムスによってラテン語に翻訳された。
- 2 カール大帝が8世紀末にパリに建てた宮廷は、古典学芸の復興運動の中心となった。
- 3 カール大帝によりブリテン島から招聘された神学者アインハルトは、古典学芸とキリスト教信仰の調和に努め、ラテン的キリスト教世界の形成に大きく寄与した。
- 4 カール大帝の時代に復興された古典ラテン語は、その後も俗語化を免れ、14世紀末ごろまで民衆の日常語として用いられ続けた。

〔Ⅱ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

明代の後半、嘉靖年間に入ると、明は外からの脅威にさらされるようになった。明はひたすら万里の長城の構築に努め、それに加えて多くの守備隊を長城地帯に配置して外敵に備え、また、東南の海岸地帯に衛や所と呼ばれる組織を増やしていった。しかし、それも空しく¹北虜・²南倭と言われる、外からの侵入に悩まされた。そのような苦境の中でも³朝鮮、⁴ベトナム、琉球等の諸王国に対しては宗主国としての体面を保ち続けようとした。

東北(マンチュリア)の女真族を統合して⁵後金国が生まれた時、明は万暦帝の時代を迎えていた。やがて西北と西南とに起こった反乱に加え、日本からの侵入に脅かされるという事態に直面した。朝鮮半島を舞台とし7年にわたって断続的に続いた戦いにおいて、明は朝鮮の宗主国として出兵を余儀なくされた。豊臣秀吉の死による日本側の撤兵の後、荒廃した朝鮮の国土と、明朝の深刻な財政窮乏状態が残された。王朝は宦官を各地に派遣して強引な徴税を企てるなどしたが、民変と呼ばれる⁶都市住民の反発・争乱を引き起こし、民意は王朝から離れる一方であった。

後金は二代目のホンタイジの時、国号を清と改め、⁷制度を整えるとともに、モンゴル地方や朝鮮半島に対して影響力を増大させていった。明は陝西省に発して急速に拡大した農民反乱を鎮圧できず、瓦解への道をたどった。清が北京を都として中国の支配王朝となった時から、万里の長城はもはや国境防衛のための装置ではなくなった。清朝は漢民族、満州族、朝鮮族、モンゴル族、チベット族等を統合する国家を標榜するようになった。清朝の支配理念はこれに止まらず、伝統的中国王朝のそれを引き継いで、東アジア全体、さらにはより広い地域にわたる諸国・諸民族が清朝の支配に服すべきであるということを当然視していた。したがって、清朝の主観からすれば清朝と周辺諸国・諸地域との関係は対等のものではあり得ず、外交関係は朝貢の形を取るべきものとされた。現実的には西方から勢力を拡大してきたロシアとの間で⁸ネルチンスク条約を結び、対等の形で国境を画定し、その後キャフタ条約も結ばれたが、この頃まではこれらの条約はまだ清朝の盛んな国力を反映した内容であった。

一方、海路を通じた海外との交渉では広州⁹を主要な舞台とした貿易が盛んに行なわれるようになったが、これも朝貢に伴う活動であるとの建前が取られ、中国を上とする不平等な通商活動が当然のこととされた。これは英国を始めとする主要貿易国にとっては承服しがたいことであった。この関係を対等のものへと変えていく試み¹⁰は再三にわたって清朝によって拒否され、交渉を受け付ける窓口も設けられなかった。この状況に大きな変化をもたらしたのはアヘン戦争とアロー戦争とであった。それぞれの戦争の後に清国と欧米諸列強との間に結ばれた種々の条約において、実質的には後者の側に有利な取り決めが行われた。また、清朝を正式に代表する外交機関¹¹が設けられるようになっていった。清朝は関税自主権を奪われ、長江(揚子江)の航行権、内地旅行権等を認めさせられていった。

清朝はロシアとの国境画定交渉¹²において次々と後退を余儀なくされ、また、朝鮮やベトナムや琉球に対する宗主権を脅かされるようになるとともに、内側からも蚕食されていくようになった。太平天国の反乱と、アロー戦争敗北の後、有力官僚による富国強兵策である洋務運動¹³が進められたが、そのための財源獲得は困難を極め、関税収入等を担保とする外国からの借款に頼らなければならない事態も生じた。これは当然、鉄道敷設権、鉱山採掘権等の様々な利権を外国に認めることを伴っていたので、民族資本を育成しようとする国内諸勢力の反発を招いた。この間清朝中央の求心力は衰える一方であり、国内各勢力の離反はとどめがたい情勢となつていった。

問1 下線部1について(以下、設問の番号は下線部の番号に照応)、16世紀なかばの時期に北虜と言われたのはモンゴル系のタタール部であったが、その指導者は誰か。解答用紙の該当欄に記せ(以下、選択肢を示されていないものについては同様)。

問2 この時期の南倭(倭寇)の害が及ばなかった都市を語群Aより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問3 高麗の武将であった李成桂が朝鮮王朝を建てたのは西暦(以下同様)何年か。
語群Bより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問4 陳朝の武将であった黎利が黎朝を建てたのは何年か。語群Bより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問5 ヌルハチによる後金国の建国は何年か。語群Bより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

問6 民変が起こった都市の中で太湖の東にあって絹織物が盛んな町はどこか。

問7 満州八旗に加えて新たに創設された二つの八旗の名称は何と何か。

問8 (イ)この条約が結ばれたのは何年か。語群Bより選び、その記号を解答欄にマークせよ。

(ロ)この時のロシア皇帝は誰か。

問9 欧米との貿易港が広州一港に制限されたのは清のどの皇帝の時か。

問10 1816年に清に派遣されたイギリスの使節は誰か。

問11 アロー戦争ののち設けられたこの機関は何か。

問12 1858年のアイグン条約において新たな国境線とされた川は何か。

問13 この運動の基本精神とされたものを漢字4字で記せ。

<語群A>

- | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|--------|---|----|
| a | 杭州 | b | 広州 | c | 泉州 | d | 北京 |
| e | 南京 | f | 福州 | g | 寧波(明州) | | |

<語群B>(数字は西暦年)

- | | | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| a | 1380 | b | 1392 | c | 1402 | d | 1428 | e | 1448 | f | 1570 |
| g | 1592 | h | 1616 | i | 1644 | j | 1689 | k | 1856 | l | 1894 |

〔Ⅲ〕 つぎの文章を読み、下記の問いに答えよ。

ヨーロッパの農業は、中世では麦作が中心であった。11世紀に入ると比較的温暖な気候が続き、技術的な改良がすすみ、三圃制が広くおこなわれて、収穫が増大した。⁽¹⁾このことは人口の増加をもたらした。新たな農地をもとめて各地で干拓や開墾が進められ、⁽²⁾また周辺の土地への進出も積極的におこなわれるようになった。現在のオランダ地方の干拓や、 以東への東方植民運動がおこなわれたほか、 では国土回復運動が進んだ。また、生産の増大にともなうて貨幣経済や商業が復活し、都市を拠点とした商業圏が形成された。

こうした中世ヨーロッパ世界は、14世紀に入ると衰退に向かう。気候が寒冷化し、不作や飢饉が続いたほか、疫病が流行し、ヨーロッパの人口は大きく減少した。荘園経済に支えられた封建制は大きな打撃を受けた。とくにイギリスやフランス、西南ドイツなど西ヨーロッパでは、農民の自立性が高まり自営農が増えた。ヨーロッパ各国で荘園領主である封建貴族の力が衰え、⁽³⁾国王の勢力が増大し、中央集権化が始まった。このころ、領内の統一が先行していたポルトガルとスペインは、海外への進出をはじめた。スペインは による現在のバハマ諸島への航海後、ピサロが現在の を中心としたインカ帝国を滅ぼすなど、カリブ海から中南米へと勢力を広げたが、この結果すでに現地で生産されていたジャガイモがヨーロッパに伝えられ、以後世界中に普及することになった。

16世紀後半からヨーロッパは寒冷期を迎えた。17世紀になると凶作や飢饉が続き、経済不況がおこり人口停滞が続く全面的な危機の時代となった。

この危機的な状況と、それに対するヨーロッパ各国の対応は、農業のあり方にもさまざまな変化をもたらした。ドイツ東部やバルト海沿岸、ロシアなど東ヨーロッパでは、領主が直営地を強化して大規模な農業経営をおこない、農奴への支配を強めた。⁽⁴⁾イギリスでは、宗教改革の結果として教会所有地を取得した新興地主層が、⁽⁵⁾羊の放牧や耕作のために土地を囲い込んだり、麦と豆科の植物を数年おきに栽培するといった農業技術の改良の試みをおこなった。18世紀に入ると第二次の囲い込みがおこなわれ、大地主により共同地や中小自営農の所有地が集められた。農業資本家は地主の集めた土地を賃借し、集約的で合理的な経営をおこな

った。休耕を必要としない [5] 農法が導入されるなど、農業上の技術革新も進んだ。これらの結果、農業生産は増大し、18世紀前半からイギリスの人口は急速に増加していった。囲い込みにより土地を失った農民は次第に都市へと移住していった。フランスでは、17世紀の間は国王ルイ14世の財務総監 [6] による重商主義政策のため穀物の価格が低く設定され、農民は困窮した。18世紀に入ると、これを批判して国富の源泉として農業を振興し生産を増大させるべきだとする [7] の考え方が出現したが、それに基づいて実行された穀物価格の自由化などの政策はかえって混乱を招いた。

17世紀から18世紀にかけて、それまで麦作が中心であったヨーロッパの農業に大きな変化をもたらしたのが、ジャガイモであった。寒さに強く、栄養価が高いうえに収量も多いため、この時代に食料としての価値が認識され、各地で栽培されるようになった。中東欧では、ジャガイモは国力の増強に熱心だった啓蒙専制君主たちの関心を集めた。例えば、プロイセンの国王 [8] は、⁽⁶⁾「ジャガイモ令」を発してジャガイモの栽培を奨励した。彼が軍を率いた最後の戦争となった1778年から80年のバイエルン継承戦争⁽⁷⁾では、プロイセン軍は食料をジャガイモに依存しており、また戦闘よりも敵軍の補給を絶つために農地を荒らすことが軍事行動の中心となったため、「ジャガイモ戦争」と呼ばれた。

18世紀末以降、ヨーロッパのいくつかの国では農民や農奴の解放⁽⁸⁾がおこなわれ、農奴に人格的自由を与えたり、土地の所有を可能にする制度が作られた。しかし多くの場合、農民が自分の土地を取得することは困難であり、またせっかく取得しても不作や経済不況にみまわれると土地を手放して小作農となったり、労働者として都市へと移住することを強いられた。とりわけ1840年代は、全ヨーロッパで大規模な不作となり多くの農民が困窮した。とくにジャガイモの病気におそわれた [9] では飢饉が続き、多くの人間が国外に移住した。これにともない、1848・49年には政治的な混乱⁽⁹⁾もまた生じた。

19世紀のヨーロッパでは資本主義が発達し、人口の都市への移動が進んだ。このころから [10] ⁽¹⁰⁾らによる有機化学の発達により化学肥料の生産が可能となり、これを用いることで農業生産が飛躍的に増大したことも、都市化を可能にした要因である。また食料としてジャガイモがますます主要な地位を占めるように

なった。イギリスでは19世紀の半ば以降、大量に供給可能となったタラなどの白身魚とジャガイモをフライにした、フィッシュ・アンド・チップスと呼ばれる料理が流行し、定着した。このような変化のもと、自然や農業に対する考え方にも⁽¹¹⁾変化があらわれた。

20世紀の初めになると、イギリスやドイツなどヨーロッパの一部の国家はその必要とする食料や飼料のかなりの部分を海外から輸入するようになっていた。植民地を持たないドイツの場合、ロシア、アメリカ合衆国、アルゼンチン、ルーマニアなどが主な穀物輸入相手国であった。第1次世界大戦が始まると、イギリスでは、1916年に首相⁽¹²⁾ロイド・ジョージのもと食糧管理局が設置され、さらに放牧地を農地に変える政策が大々的に実行された。海上封鎖を受けたドイツでは厳格な食糧配給制度が実施された。小麦の配給量は戦前の平均消費量の半分以下程度であったが、ジャガイモは9割程度供給され、これが主食としての位置を占めた。1916年の冬にはそのジャガイモさえ十分に配給できなくなり、代わりにカブ(ルタバガ)が配られたので「カブラの冬」と呼ばれた。

問1 空欄 ~ に入る最も適切な語句を、下記の語群のなかからそれぞれ一つずつ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- | | | |
|-------------|--------------------|-----------|
| 1 アイルランド | 2 アルゼンチン | 3 イベリア半島 |
| 4 エルベ川 | 5 コルベール | 6 コロンブス |
| 7 サフォーク | 8 重農主義 | 9 テュルゴー |
| 10 ドナウ川 | 11 農本思想 | 12 ノーフォーク |
| 13 バルカン半島 | 14 バルトロメウ＝ディアス | |
| 15 フリードリヒ2世 | 16 フリードリヒ＝ヴィルヘルム1世 | |
| 17 ペルー | 18 ラヴォワジエ | 19 リービヒ |
| 20 ロシア | | |

問2 下線部(1)に関連して、三圃制の特徴について述べた以下の文のうち不適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アルプス以南の土地では、すでにローマ時代から普及していた。
- b 鉄器の生産が拡大し、重量有輪犁が用いられるようになった。
- c 耕作に馬を利用したり、村落単位で共同で耕作をおこなうようになった。
- d 秋には小麦・ライ麦を植え、春には大麦と燕麦を植える。

問3 下線部(2)に関連して、11世紀末に設立されて中世の西ヨーロッパにおける開墾運動に大きな役割を果たした修道会の名称を解答欄に記せ。

問4 下線部(3)に関連して、封建貴族の衰退の原因について述べた以下の文のうち、不適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ワット・タイラーの乱やジャックリーの乱など、各地で農民の反乱が相次いだ。
- b 中小領主は国王や大諸侯に領地を没収される場合があった。
- c 火器の発達による戦法の変化で騎士が活躍する余地がなくなった。
- d 聖職者叙任権をめぐる教皇と皇帝が反目した。

問5 下線部(4)に関連して、農奴制の強化について述べた以下の文のうち、不適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a 貨幣経済の広まるなか、中・東欧の領主は、より多くの利益を確保するため、年貢の徴収を現物地代から貨幣地代に切り替えていった。
- b 現在のドイツ東部やポーランドに当たる地域では、領主層は裁判権を持つだけでなく地方行政をも担当し、ユンカーと呼ばれていた。
- c モスクワ大公のイヴァン4世と、その死後の混乱期を経てロシア皇帝となったミハイル＝ロマノフは、ともに農奴制を強化した。
- d 農奴制を逃れてロシアの東南辺境に逃亡した農民たちはコサックと呼ばれるようになった。

問6 下線部(5)に関連して、イギリスで出現した新興地主層の名称を解答欄に記せ。

問7 下線部(6)に関連して、この時代の啓蒙専制君主をはじめとするヨーロッパ各国の君主について述べた以下の文のうち、不適切なものをすべて選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a プロイセンのフリードリヒ＝ヴィルヘルム1世は行・財政制度を改革し、強力な軍隊を整備した。
- b ロシアのエカチェリーナ2世は、さまざまな改革をおこなったが、在位中に農奴制はむしろ強化された。
- c オーストリアのマリア＝テレジアは、農奴の賦役の軽減などの改革をおこなった。
- d イギリスの独立自営農民は、国王ジェームズ1世の絶対王権を支えた。
- e フランスのルイ15世は海外貿易を奨励し、財政難を克服した。

問8 下線部(7)に関連して、この戦争のように王位継承問題を主たる原因とする諸戦争について述べた以下の文のうち、適切なものをすべて選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ファルツ継承戦争では、フランスは神聖ローマ帝国のライン左岸領を併合した。
- b オーストリア継承戦争とそれに続く七年戦争の結果、プロイセンはシュレジエン(シレジア)を獲得した。
- c フランス王フランソワ1世のスペイン王位要求から始まったスペイン継承戦争は、植民地を巻き込んだ世界規模の戦いとなった。
- d これらの戦争では、諸国は自然国境説や王権神授説に基づいて他国の王位への要求を正当化した。
- e これらの戦争に並行しておこなわれた植民地の争奪戦は、最終的にイギリスに有利に進展した。

問9 下線部(8)に関連して、ヨーロッパ各国の農民や農奴の解放について述べた以下の文のうち、不適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a フランスでは、革命時の国民議会在すべての封建的特権の即時無償廃止を決議した。
- b プロイセンではナポレオンに敗れたのち行われたプロイセン改革において農奴制が廃止された。
- c ロシアでは、1861年に皇帝アレクサンドル2世が農奴解放令を発した。
- d オーストリアでは、ヨーゼフ2世が農奴解放令を発したが、実効に乏しかった。

問10 下線部(9)に関連して、1848・49年のヨーロッパ各国の政治的混乱について述べた以下の文のうち、適切なものをすべて選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ベルギーの独立宣言が引き金になった。
- b イギリスでは農民を中心にしたチャーティスト運動が最高潮に達した。
- c 二月革命後に行われたフランスの普通選挙では、農民は革命の急進化をおそれ、ブルジョワ中心の穏健な共和派を支持した。
- d フランスで、二月革命による混乱後に登場したナポレオン3世は農民の人気をとる政策を展開した。
- e ロシアは国内の動揺を恐れて、他国の混乱に積極的に介入しなかった。

問11 下線部(10)に関連して、資本主義を批判し、資本主義社会の平等主義的な変革を構想する社会経済思想をなんと総称するか、答えよ。

問12 下線部(11)に関連して、19世紀の自然や農業に対する新しいとらえ方について述べた以下の文のうち、不適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ウィーンで活躍した作曲家ベートーヴェンは、「幻想交響曲」のなかで自然の様子や人々の気分を音楽で描写しようとした。
- b イギリスの人口学者マルサスは、人口の増加と食料生産の関係から貧困の発生するメカニズムを明らかにしようとした。
- c ロシアの作家トゥルゲーネフは、貴族出身であったが、農奴制を批判する小説を多く書いた。
- d イギリスの博物学者ダーウィンは生物の進化に関する仮説を唱えた。

問13 下線部(12)に関連して、20世紀初めのドイツへの穀物輸出国であった各国の状況について述べた以下の文のうち、不適切なものを一つ選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a ロシアの首相ストルイピンは、農村共同体を解体し、その土地を国有化するなどの改革をおこなった。
- b アルゼンチンは、ナポレオン戦争後にサン＝マルティンの指導下にスペインの支配から独立した。
- c 米西戦争後、アメリカ合衆国はカリブ海一帯を支配下におき、パナマ地峡を租借してパナマ運河を完成させた。
- d 第1次世界大戦に際して、ルーマニアは1916年、連合国側に立って参戦した。

問14 下線部(13)に関連して、ロイド・ジョージについて述べた以下の文のうち、不適切なものをすべて選び、その記号を解答欄にマークせよ。

- a アイルランド自治法の成立に尽力したが、同法は1914年に成立したものの、大戦のため実施されなかった。
- b 大戦中は、それまで長年にわたり対立してきた自由党と労働党からなる挙国一致内閣の首相を務めた。
- c ロシア革命が勃発すると、反革命勢力を支持し、各地に干涉軍を派遣してソヴィエト政権を攻撃した。
- d 戦後の1918年、選挙法を改正しイギリス最初の普通選挙を導入した。
- e 戦後のパリ講和会議では敗戦国ドイツに厳しい条件を出すことを主張した。

(白 紙)